

大手前通り

OTEMAE STREET

大手前通りの歴史

拡幅前のまちの様子



右の地図は「昭和4年姫路市街図」の一部です。中央のやや太い道は明治36年の開港天皇奉事のために整備されたみゆき通りです。大手前通りの位置には城長の狭い「國府寺筋(こうでらすじ)」があります。当時のメインストリートはその西側にある「中ノ門筋」だったそうです。

復興都市計画事業による50m観光道路の建設



第2次世界大戦の空襲により焦土と化した姫路の中心地は、石見元秀市長が推進した「復興都市計画事業」により復活を遂げます。その事業の一つが昭和24年から始まった 50m 観光道路の建設です。写真は建設途中のものであり、二階町あたりから北側が拓幅され、南には民家が残っている様子がうかがえます。

昭和29年に開通し、名前は「大手前通り」に



並木工事は昭和29年に完成、昭和30年2月20日に開通式がおこなわれました(写真左)。道路の名称は市民公募で「大手前通り」に決定し、開通式で発表されました。当初は現在よりも歩道が狭く、車道は高速度車線・肆地帯・緩急車線という構造でした。昭和59～63年のシンボルロード整備事業で現在の歩道幅になりました。

大手前通りでおこなわれた姫路城心柱の祝曳き



姫路城昭和の大修理は一部戦前から着手されていましたが、根本的な解体修理は昭和31年に着手されました。最初に茅屋根を架け、天守を解体。昭和34年から組立工事が開始され、翌年上棟祭が行われ、昭和39年3月末に完了しました。昭和34年、天守の西の心柱に使用する柱は姫路市民認出で大手前通りを祝曳きされ、姫路城内へと運び込まれました。

大手前通りのいま

大手前通り街づくり協議会



大手前通りの課題解決に向けて行政との役割分担の基に地権者としてのまちづくりを進めていく組織として、平成9年2月に設立されました。現在「ビューティ」「アクティビティ」「ホスピタリティ」をテーマに3つの分科会において活動しています。協議会会長である岡本一さんにお話を伺いました。活動を始めた頃先進事例の視察を志すこと、「行政に頼らない自律的な活動」と「会員相互の親睦」が重要であることを学び、それを活動の根柢にされているとのこと。しかしながら、地権者、ビルオーナー、テナントという立場の異なる会員構成のため、一体感を得ることに苦労しているとも。活動の目的は大手前通りという公共空間を活用したまちの盛り上がりであり、さまざまな活動アイデアはあるが公共空間であるが故の制約も多く、実現に至らないこともあります。今後の活動については「駅周辺整備で十二所跡以南はリニューアルされる。次は十二所跡以北の推進。行政にも働きかけたい」「ムクドリ対策として街路樹を低木化できないだろうか」など熱く語ってくださいました。



大手前通りまちづくり協議会ホームページより

姫路観光コンベンションビューロー 魅力発掘ワーキングチーム

姫路の埋もれた魅力を発掘・発信し、市民やワーカーのまちなか散策などの活動を誇り、それを観光客につなげていくことを目的とする市民やワーカー主体の活動として、2010年7月に活動を開始しました。最初の活動エリアを大手前通りを中心とする都心エリアとして、フィールドワークや文献調査、ヒアリングなどにより魅力の素材を収集、発信ツールを作成し情報発信しています。第一弾の成果として2012年4月に日種類のまちなか散策マップ「よってくだん姫路」を実行しました。姫路城を中心とした歴史資源だけでなく、「隠れ谷」「レトロショッピング」「建築」などメンバー独自の視点で姫路の魅力を浮かび上がらせています。2012年度はより幅広い活動に進化しています。



現代の大手前通り

姫路のメインストリート



大手前通りは、姫路駅と姫路城を結ぶ中心部の骨格を形成しています。昭和61年には当時の建設省により「日本の道100選」に選定されました。写真は駅前に設置された記念碑です。また平成元年には第1回全国街路事業コンクールで「建設省都市局長賞」を受賞しています。

姫路お城まつり



昭和23年、魔除と化した姫路中心部にあって、奇跡的に残った姫路城を最後復興のシンボルとし、新生姫路市の誕生を目指し、また市民の心のよりどころとなる祭りとして幕を開けました(公式ホームページより)。毎年8月の第1金曜日から3日間開催され、大手前通りも食場となり「市民パレード」「歴史パレード」「おどり」がおこなわれます。

姫路ゆかたまつり



姫路城の守り神である義豊神社の夏祭り。江戸・吉原の高尾太夫を落籍し、風流大名と呼ばれた柳原政等(まさみね)が始めたといわれています。姫路市の初夏の風物詩で毎年6月22日から24日に開催されます。大手前通りの歩道を中心におよそ800の夜店が並び、その数は西日本一といわれています。

B-1グランプリ in 姫路



2011年11月12日・13日に「第6回日経ご当地グルメの祭典! B-1グランプリ in 姫路」が開催され、全国から61万5千人の人たちが訪れました。大手前公園や豪徳寺駅前公園などお城周辺の5会場で開催され、期間中大手前通りも車両通行禁止となり、多くの人が賑わいました。

新しい大手前通り

姫路駅周辺整備事業

姫路市による姫路駅周辺整備事業により、姫路駅前が大きく変貌しようとしています。姫路市の都市づくりの基本理念である3つの共生(人と人の共生、自然との共生、歴史文化との共生)が具体的な姿となって表現される場所として、人々が憩いくつろぎ交流し、水と緑があふれ、姫路城の外濠などの歴史資源を現在に継承する空間が創出されるのです。

その中で、大手前通りも今までにシルバーリックで人に優しい空間に変わります。JR姫路駅中央コンコース北側には跳ね上げ式ガラスドアが設けられ、まるで鏡張りの中の絵のように大手前通りと姫路城を眺めることができます(イメージパース上)



写真提供: 姫路市姫路駅周辺整備室

また十二所跡以南の大手前通りは歩道部分が拡張され車道はバス・タクシーだけが走行するという歩行者中心の通りに生まれ変わります。(イメージパース下)



写真提供: 姫路市姫路駅周辺整備室

姫路駅前広場活用協議会

姫路駅周辺整備によって世界に誇れる駅前空間が生み出されようとしています。その「ハード面を活かすためのソフト」も必要との考え方から、NPO、地元商店街、市民を中心に2011年に「姫路駅前広場活用連絡会」が立ち上がり、2012年には協議会へと進化しました。メンバーによる将来像づくりやその実現のための方針を検討すると共に、空間活用の推進母体となる法人設立も検討され、2012年10月に「一般社団法人ひとネットワークひめじ」が設立されました。活躍が期待されます!



姫路

まちなか 魅力マップ

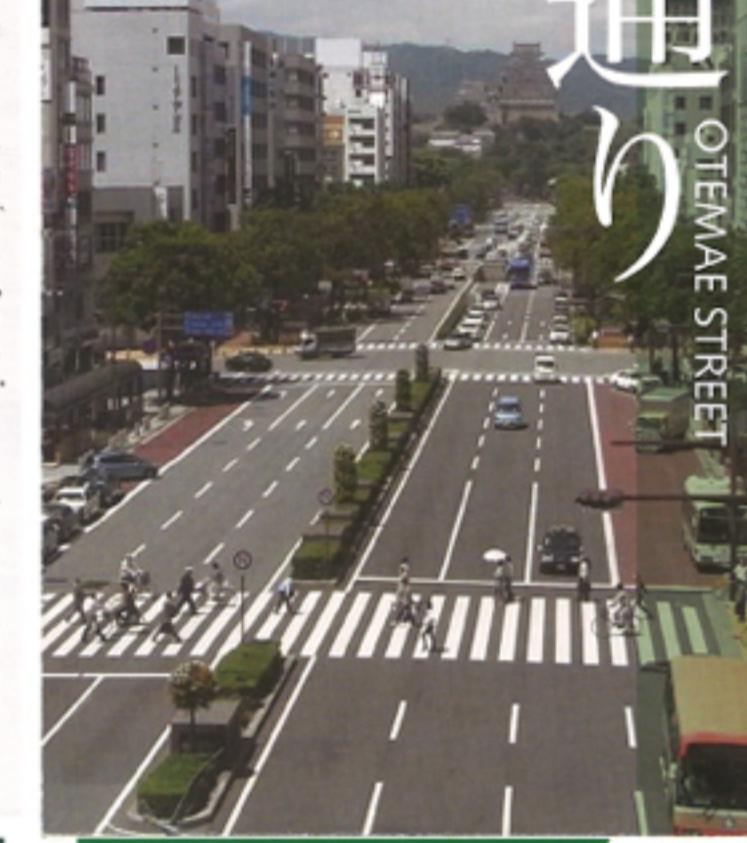
Treasure Map

Downtown

HIMEJI

2012

WDB
人情サービス



大手前通り周辺・レトロ写真館



竣工直後のヤマトヤシキ

戦後南北区画の垣根が完成した昭和32年頃の様子。大阪以西で最も高いビルであり、市域全体を見渡せたので昭和39年に消防用の望楼が設置されました。塔頂部の看板には平面名で「やまとやしき」と表示されています。

写真提供: ヤマトヤシキ



姫路駅北駅前の様子
(昭和50年)

バスやタクシーで渋滞している様子がよくあります。大手前通りは現在よりも車道が広く、片側6車線もありました。

写真提供: 高橋秀吉コレクション
(兵庫県立歴史博物館蔵)



西二階町の様子
(昭和49年)

現在の西二階町商店街の入口付近の写真。木造の町家に「さとの西松屋」とあります。

写真提供: 高橋秀吉コレクション
(兵庫県立歴史博物館蔵)

お城まつりの時期の大手前通り(昭和46年)

当時は「祝・お城まつり」の立派な看板が大手前通りに並んでいました。

写真提供:
高橋秀吉コレクション
(兵庫県立歴史博物館蔵)



姫路

まちなか 魅力マップ

Treasure Map

Downtown

HIMEJI

2012

企画・制作: 大手前通り魅力マッププロジェクトチーム
問い合わせ窓口: otemae1955@gmail.com [担当: 横田]
協力: 大手前通り街づくり協議会
姫路観光コンベンションビューロー・魅力発掘ワーキングチーム
発行: 2012年11月22日
※表紙の写真は2008年6月に撮影されたものです。
写真提供: 姫路観光コンベンションビューロー

デザイン: 同田昌志